

宝塚栄光教会のクリスマス

今年のクリスマスはぜひ教会でお過ごしください。

12/20 (日) 10:30~12:00

クリスマス礼拝

イエス・キリストの誕生日に一番近い日曜日の朝、世界中のキリスト教会で降誕節記念礼拝がささげられています。(聖歌隊がメサイヤから2曲賛美します。)



12/20 (日) 13:30~15:00

燭火礼拝(キャンドル・ライト・サービス)

わたしは世の光です、と言われるイエス・キリストのお誕生をローソクの光の中で喜び讃えます。キャロルと聖書の言葉をもって、お誕生のストーリーをたどります。聖歌隊の賛美やトーンチャイムの演奏もささげられます。

12/24 (木) 17:45~18:30

キャロリング

逆瀬川駅前前でクリスマスキャロルを歌います。どなたでも一緒にどうぞ。



12/24 (木) 19:00~21:00

ベアンテ・ボーマン・チェロコンサート ~クリスマスを祝う~

美しいチェロの調べとユーモアあふれるメッセージをお楽しみください。

ベアンテ・ボーマン(チェロ)

スウェーデンのファルン市で生まれる。ストックホルム王立音楽大学で最優秀賞を授与され、ゴッデンブルグ市の国立歌劇場の首席チェロ奏者を務める。その後、ドイツの国立 Folkwang 芸術大学、フィンランドシベリウス・アカデミーで学ぶ。1980年より31年間、東京交響楽団で首席チェロ奏者として活躍した。神学博士、全日本山岳写真協会会員。



ルリ子・ボーマン(ピアノ)

武蔵野音楽大学卒業後、ドイツの国立 Folkwang 芸術大学で学び、帰国後、ベアンテ氏と結婚。夫君の伝道コンサートでの伴奏や通訳を担当している。

讃美歌誕生秘話「きよしこの夜」

クリスマスシーズンになると、あちこちからクリスマスキャロルが聞こえてきます。「きよしこの夜」はおそらく最も有名なクリスマスキャロルではないでしょうか。

1818年のクリスマスイブ、オーストリア中部の小さな村の聖ニコラス教会で、オルガンがねずみにかじられて突然故障してしまったのです。その教会の助祭ヨゼフ・モールは大急ぎで歌詞を書き、オルガニストのフランツ・グルーバーが旋律をつけ、ギターで伴奏して急場をしのぎました。その曲こそが「きよしこの夜」だったのです。

小さな村でのピンチが美しい讃美歌を生み出し、世界中で愛され、歌い継がれているのです。

きよしこの夜 星はひかり
救いの御子(みこ)は まぶねの中に
眠りたもう いと安く



元旦礼拝

2016年1/1(金) 11:00~12:00

新年を神様の前から始めることは、大きな祝福になります。ご家族おそろいで、ご出席ください。

Glory100号記念特別企画!! 愛読者プレゼントのお知らせ



この度、Gloryは100号を迎えました。これを記念して、来年のオリジナルカレンダーを、日頃からGloryを愛読して下さっている皆様にプレゼントいたします。ふるってご応募ください。



応募方法

TEL:0797-73-6076
FAX:0797-73-6075
Eメール:info@takara-eikou.com

必ず、お名前、ご住所、ご連絡先をお知らせください。



お気軽にお問い合わせ・ご相談ください。

「ケアプラン オリーブの実」

☎:0797-73-6055

「デイサービス オリーブの実」

☎:0797-73-6077

宝塚栄光教会

牧師: 岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9

TEL:0797-73-6076

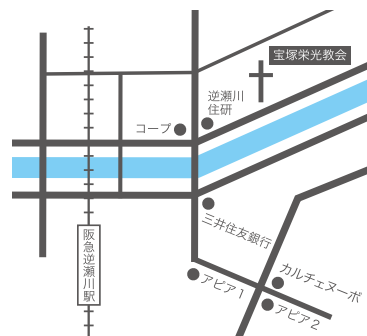
E-mail: info@takara-eikou.com

http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル 0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なキリスト教会です。もしお困りの方はご相談ください。

ポッドキャストでも配信!
ホームページから利用できます。



神はともにおられる

クリスマスのシーズンです。クリスマスは、神の子キリストが人としてこの世にお生まれになったことを喜ぶ時です。

キリストの母となったのは、マリヤという一人の女性であったことは周知のことです。キリストがお生まれになる前、マリヤの婚約者ヨセフは、マリヤとの婚約を解消しようとしました。自分のあずかり知らぬところで、彼女が身重になったことがわかったからです。しかし、婚約を解消したところで、彼女のおなかは大きくなっていき、やがて人々に知れるでしょう。そして彼女は、罪を犯したということで、石打ちの刑に処せられるのです。

ヨセフは悩みました。そんなとき、み使いが現れ、恐れずに彼女を妻に迎えなさいと告げました。そして、次にみ使いが言った言葉がこれです。

「『見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)」(マタイの福音書1章23節)

キリストは、神が私たちと共におられると

いう恵みを、具体的に現すお方として来られました。私たちは、きよい神によって裁かれなければならない罪人です。しかし神は、私たちが滅びるのを見るに忍びないと思われ、ひとり子キリストをこの世にお送りくださいました。

キリストは、罪のない神の子であられたにも関わらず、むごい十字架に付けられて死なれました。それは私たちの身代わりでした。本当は、私たちが罪の罰を受けなければならないのに、そうならなくてもよいように、罰など受けるはずのないキリストが、私たちの代わりに、神から罰を受けてくださったのです。

このことを信じるなら、私たちのすべての罪は赦され、私たちは救われます。この救いをいただくのが、神が私たちと共におられるという祝福の始まりなのです。

クリスマスとは、神が私たちにこの祝福を与えようとして、キリストをお遣わしくくださったことを喜ぶ時です。本当のクリスマスの意味を知った者として、共に心からキリストのご降誕をお祝いしようではありませんか。



「オオカメノキ」

季節は秋から冬へと 移ろうとしている
晴れ渡った空や心地よい風も 束の間の日々であったように思える
陽ざしは少しずつ薄くなり 通り過ぎる風の音が強く耳に聞こえて
もうこんなに冬が近づいている！と驚く

あまりにも 忙しさにかまけ
日常のやり取りに気を取られて 日を送っていたのだ

迫りくるものに しっかり目を留め
心を油断なく整え 確かなもので装備して
引き締めていなければならぬ
揺れ騒めくものに 足を掬われないように
必要と不必要とを見極めて 備えておくのだ

オオカメノキの 秋から冬にかけての姿に 胸を打たれた
春のころの白いアジサイに似た花は 夏ごろから赤い実となり
やがて黒く熟していく

葉はみごとに紅葉するが この葉の散った後には
すでにしっかりと冬芽になっていて 寒い時期を過ごすのだ
熟した実は 上向きにツンと立ち 多くの鳥たちの食糧として提供する
一粒も残らない

十二月に誕生を祝う キリストの姿と重なる
一粒も残さず与え尽くしたからだ

目を確かに天に向けて 備えをもって この冬も乗り切ろう

ひとりのみどりごが わたしたちのために生まれた

ひとりの男の子が わたしたちに与えられた

権威が彼の肩にある その名は

「驚くべき指導者 力ある神 永遠の父 平和の君」と唱えられる